

緑の基本計画

第四期行動計画

～令和2年度事業評価のまとめ～



評価シートの結果について

1 評価

稲城市自然環境保全審議会委員に5段階（◎、○、△、×、－）で評価していただいたものを点数化し、その平均値を四捨五入し判定します。評価の点数は次のとおりです。

◎＝3点、○＝2点、△＝1点、×＝0点、－＝－1点

※例えば、平均値が1.5点であれば2点となるので全体の評価は○になり、1.4点であれば1点となるので全体の評価は△となります。

2 評価理由

稲城市自然環境保全審議会委員からいただいたご意見をランダムに掲載しております。

目次・総合評価表

施策番号	施策名	担当課	◎	○	△	×	-	平均	総合評価
1-1	自然環境保全地域の指定・拡充	土木課	1	4	6	0	0	1.55	◎
1-2	樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援	土木課	1	3	5	2	0	1.27	△
2-1	生態系や親水性に配慮した水辺空間の整備	土木課	8	2	1	0	0	2.64	◎
2-1	生態系や親水性に配慮した水辺空間の整備	区画整理課	2	2	0	0	3	1.43	△
2-2	既成市街地での適切な公園配置方針の策定	土木課	1	0	6	4	0	0.82	△
2-3	借地公園制度の運用検討	土木課	1	1	1	1	3	0.86	△
2-4	身近な公園の再整備	土木課	1	10	0	0	0	2.09	○
2-5	公共施設の緑化	教育総務課	1	10	0	0	0	2.09	○
2-5	公共施設の緑化	指導課	7	3	0	0	0	2.70	◎
2-5	公共施設の緑化	子育て支援課	1	10	0	0	0	2.09	○
2-5	公共施設の緑化	生涯学習課	1	9	0	0	0	2.10	○
2-5	公共施設の緑化	市民協働課	1	8	2	0	0	1.91	○
2-5	公共施設の緑化	健康課	1	0	8	2	0	1.00	△
2-5	公共施設の緑化	市立病院管理課	3	8	0	0	0	2.27	○
2-5	公共施設の緑化	図書館課	1	10	0	0	0	2.09	○
2-6	自然樹形を感じさせる維持管理の検討	土木課	1	9	1	0	0	2.00	○
2-6	自然樹形を感じさせる維持管理の検討	管理課	1	9	1	0	0	2.00	○
3-1	土地区画整理事業による公園・緑地の整備	区画整理課	1	1	0	0	4	0.83	△
3-1	土地区画整理事業による公園・緑地の整備	市街地整備課	1	4	6	0	0	1.55	○
3-2	公共施設の緑化	教育総務課	1	9	1	0	0	2.00	○
3-3	地区計画区域の拡充と緑化率条例の検討	都市計画課	8	3	0	0	0	2.73	◎
3-4	四季折々に楽しめる街路樹の整備	区画整理課	0	0	0	0	0	0.00	-
3-4	四季折々に楽しめる街路樹の整備	市街地整備課	1	1	1	6	0	0.67	△
4-1	駅前緑化プロジェクト	区画整理課	1	2	0	0	4	1.00	△
5-1	市民ボランティアの人材育成・組織化・活動支援	土木課	1	0	1	7	0	0.44	×
5-1	市民ボランティアの人材育成・組織化・活動支援	市街地整備課	1	0	5	3	0	0.89	△
5-2	各種普及啓発活動の実施	土木課	1	3	7	0	0	1.45	△
5-2	各種普及啓発活動の実施	管理課	2	7	2	0	0	2.00	○
5-2	各種普及啓発活動の実施	指導課	7	2	1	0	0	2.60	◎
5-3	水と緑の情報収集・提供	土木課	1	9	0	0	0	2.10	○
他1	緑化推進基金の活用方針の検討	土木課	1	8	1	0	0	2.00	○
他2	稲城市樹木花卉植栽計画の改定	土木課	1	1	8	0	0	1.30	△

評価シートの記入について

評価 (◎、○、△、×、-)	<p>5段階で評価してください。</p> <p>◎: 高く評価できる(目標を早期に達成できた、努力しているなど)</p> <p>○: 評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)</p> <p>△: やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)</p> <p>×: 評価できない(まったく進んでいないなど)</p> <p>-: 未評価(当該年度は着手時期ではない)</p>
令和2年度事業報告に対する意見	
<p>上段の評価をした理由</p>	

1.「緑の環」の保全活用プロジェクト

1-1 自然環境保全地域の指定・拡充

施策の展開方針	「緑の環」を形成している多摩丘陵の斜面緑地は、市内のどこからでも目にすることができるなど、稲城の緑の骨格として緑豊かな稲城のイメージの源泉となっています。 市街地から見える景観的に重要な樹林地や谷戸沿いの樹林地、生物多様性が高い樹林地の保全を図るため、自然環境保全地域の指定・拡充を図り、景観や生物多様性の向上に努めます。
担当課	土木課
対象施設など	良好な民有樹林
10年間の目標	18箇所 16.3haを保全地域に指定・拡充する。
展開手法など	「稲城市における自然環境の保護と緑の回復に関する条例」に基づき、自然環境保全地域を指定します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
令和2年3月末の状況	17箇所 14.2haを保全地域に指定	
事業目標量	18箇所 16.3haを保全地域に指定・拡充する。	
第三期事業量	平成29年度	薄葉谷戸川東側の斜面緑地
	平成30年度	駒沢学園北側の斜面緑地
	平成31年度	追加指定について検討する。
第四期事業量	令和2年度	駒沢学園北側の斜面緑地の指定
	令和3年度	新規指定候補地の検討
令和2年度事業報告		
事業目標	駒沢学園北側の斜面緑地の指定	
事業実績	籠谷周辺緑地の追加指定	
担当課評価	△	
評価理由	駒沢学園北側の斜面緑地の指定はできていないが、籠谷周辺緑地(約1.18ha)を新規指定出来たため。	
今後の対応	引き続き市内の良好な民有緑地確保のため、新規指定に努める。	

評価 (◎、○、△、×、－)	◎高く評価できる(目標を早期に達成できた、努力しているなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・地主との交渉には、たいへんな労力がかかることを考えると、新規指定できたことは評価される。 ・「良好な民有緑地確保」に向け、量的な確保だけでなく、緑地の質的価値(例えば、植物の希少性等)も考慮して、新規指定をを着実に実施していきましょう。 ・想定したエリアではないにせよ、既存の保全地域の近傍での新たな地域指定で、面積的には拡大できたことは評価する。このような動きを契機として、指定地域が拡充されていくことが期待できる。なお、このような計画変更はありうることなので、事業報告においては、各期事業量に対してではなく、事業目標量(箇所数・面積)についての到達状況を示していただきたい。 ・予定地とは異なる土地であるが、新規指定できた。 ・まとまった緑地になるように、適宜見直しをしつつ指定を進めている ・追加、新規指定に努めてあるので。 ・毎年指定出来ている。 ・民有地なので地権者の同意などハードルがあるが少しずつでも指定地域が増えている所は評価できる。 	

1.「緑の環」の保全活用プロジェクト

1-2 樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援

施策の展開方針	市街地から見える景観的に重要な樹林地や谷戸沿いの樹林地、生物多様性が高い樹林地の保全を図るため、指定された自然環境保全地域の樹林地の育成管理を行う、樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援を行います。
担当課	土木課
対象施設など	穴澤天神社・よみうりランド北側緑地
10年間の目標	2箇所 1団体(第一期段階) 第二期以降に、実施箇所の追加の検討
展開手法など	穴澤天神社・よみうりランド北側緑地に隣接する、川崎市の小沢城址特別緑地保全地区では、既にボランティアによる樹林地管理が行われています。このボランティア団体と連携を図りながら、稲城市側でも樹林地管理ボランティアを組織化していきます。他の樹林地管理についても、その管理ノウハウを広めていきます。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
令和2年3月末の状況	民有樹林地での活動事例の調査を実施	
事業目標量	2箇所1団体(第一期段階)。第二期以降に実施箇所の追加の検討する。	
第三期事業量	平成29年度	民有樹林地における活動の事例を調査する。
	平成30年度	民有樹林地における活動の事例を調査する。
	平成31年度	5-1で組織化した市民ボランティアを民有地で活動できるよう、検討する。
第四期事業量	令和2年度	樹林地管理計画の策定
	令和3年度	ボランティア活動支援の実施
令和2年度事業報告		
事業目標	樹林地管理計画の策定	
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ナラ枯れ防除を行った。 ・市内で活動できるような場所や管理方法について検討した。 ・森林環境譲与税の用途の1つとして検討した。 	
担当課評価	○	
評価理由	官民連携しナラ枯れ防除に取り組んだため。	
今後の対応	引き続き活動に向けて検討する。	

評価 (◎、○、△、×、-)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	<p>・樹林地管理ボランティアの人材育成・組織化・活動支援については、まだ成果はみられないと思われる。</p> <p>・確かに、「ナラ枯れ防止」でのご努力は高く評価できるものですが、本項目の方針、施策は「ボランティアの人材の育成・組織強化・活動支援」であり、この項目で成果とすることには、適当ではないと思われます。</p> <p>・方針や目標を見る限り、市民ボランティアの育成や組織化に重点を置いていたはず。事業タイトルもそのように記述されている。ナラ枯れという緊急対応要素が発生したことは事実だとしても、その活動をこの項目の成果にすることは納得がいかない。ここで述べられた官民連携は、土地所有者との連携と思われるが、事業目標には、土地所有者を支援する第三者ボランティアが掲げられていると理解されるので、担当課による事業報告・自己評価においても、その領域の成果を評価していただきたい。掲げていた目標は、この事業期間に全く進まなかったのは、何が原因であり何が障害になったのか、十分な検討を次の期間目標に反映していただきたい。この事業目標は難題だが重要なことと思われるので、簡単には看板を買っていただきたい。</p> <p>・活動方法を検討した部分は評価できる。しかし防除作業内容や管理方法に関する報告がなく内容がわからない。特にナラ枯れ防除は駆除なのか予防なのかははっきりとしない。カシナガの被害は枯死した樹木のみがクローズアップされてしまうが、城山公園で確認した通り枯れた樹木のすべてがカシナガによる加害によって枯死したというナラ枯れではなかった。被害は枯死した樹木だけではなく、今後の予測を立てる上でも被害状況の明確な把握(どの樹木が何本カシナガにより加害され、その内何木が枯死しに至ったのか)が防除計画を立てる上で不可欠であるため専門の知識を持つものが被害確認を行わないと、枯死木数でさえ信憑性に乏しく意味のない数字となってしまふ。上記の理由で有効な取り組みであったかどうかはわからない。</p> <p>・ナラ枯れについて、民有樹林地の所有者の方と、情報共有や対策協力ができたことは良かった。緊急案件のご対応ありがとうございました。樹林地ボランティアについては、おそらくコロナの影響もあり、具体的に何も進んでいないのが残念。</p> <p>・ボランティア活動の実施があった場合、その内容が知りたい。</p> <p>・樹林地管理に努めてあるため。</p> <p>・民有樹林地活動事例調査、団体へのヒアリングは出来たが、樹林地管理計画の全体像がまだ見えない。分科会では活動指針を作成する事になっていたがその後どうなったか知りたい。</p> <p>・人材育成、組織化に重点を。森林環境譲与税の用途としてアイデアだと思います。</p>

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-1 生態系や親水性に配慮した水辺空間の整備

施策の展開方針	既成市街地内を流れる大丸用水を活用し、散策路の整備を行い、水と緑の歩行者空間のネットワーク化を進めます。整備を行う際は、身近な親水空間として生態系に配慮した護岸整備などを進めていきます。
担当課	土木課・区画整理課
対象施設など	菅堀・新堀・中野島用水堀
10年間の目標	3,362mの整備
展開手法など	菅堀は、第四次稲城市長期総合計画に基づきながら、生態系や親水性に配慮した親水公園の整備に努めます。 区画整理事業により整備される主要な用水について、生態系や親水性への配慮を事業計画に盛り込み、整備を進めていきます。
備考	土地区画整理事業区域内は区画整理課が担当し、その他は土木課が担当する。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
令和2年3月末の状況	菅堀整備予定延長420mのうち、150mの整備が完了	
事業目標量	菅堀を整備する。	
第三期事業量	平成29年度	菅堀150mの整備
	平成30年度	菅堀120mの整備
	平成31年度	菅堀150mの整備・事業完了
第四期事業量	令和2年度	菅堀150mの設計
	令和3年度	菅堀120mの整備
令和2年度事業報告		
事業目標	菅堀150mの設計	
事業実績	菅堀150mの設計	
担当課評価	◎	
評価理由	目標どおり設計を完了したため	
今後の対応	未整備区間の整備を実施する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	◎高く評価できる(目標を早期に達成できた、努力しているなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・整備が計画的に進められた。 ・「管堀〇m」という表記が連続していることについて、昨年状況が読み取れない旨申し上げましたが、欄外に注記をしていただいたようで、感謝します。しかしながら、目標と評価は、万人が理解できる記述で公開していくべきものですので、このような注記は、欄の中を書くべきと考えます。この件のように、年度成果が翌年の事業目標を変えていくような事業では、当初目標の他に、修正目標も持たないと、何をしているのか判らなくなります。ご一考ください。当初予定より遅れているとはいえ、設計と整備が進められていることは評価できると思います。ただし、目標をスライドしての実施ということであれば、単年度評価としても満点とはいいたいです。 ・着実に進んでいるため。 ・行政の事業予定に従って進行中である。 ・目標どおり完了したので◎です。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-1 生態系や親水性に配慮した水辺空間の整備

担当課名	区画整理課	
令和2年3月末の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・榎戸土地区画整理事業:中堀系水路62mの整備完了 ・矢野口駅周辺土地区画整理事業:田川系45mの整備完了 ・稲城長沼駅周辺土地区画整理事業:新堀系196mの整備完了 ・南多摩駅周辺土地区画整理事業:清水川系15mの整備完了 	
事業目標量	新堀・中野島用水堀などを整備する。	
第三期事業量	平成29年度	
	平成30年度	・榎戸土地区画整理事業:清水川系(25m)
	平成31年度	
第四期事業量	令和2年度	-
	令和3年度	-
令和2年度事業報告		
事業目標	-	
事業実績	-	
担当課評価	-	
評価理由	-	
今後の対応	-	

評価 (◎、○、△、×、-)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・整備がされているため。 ・区画整理事業にそって進行中の事と推察する。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-2 既成市街地での適切な公園配置方針の策定

施策の展開方針	既成市街地で公園が少ない区域では、身近な緑の拠点づくりとして、適切な公園配置方針の策定を行います。
担当課	土木課
対象施設など	既成市街地
10年間の目標	第二期終了時点(平成28年度末)までに、公園配置方針を策定
展開手法など	公園利用の実態などの不足状況の調査を実施し、まちづくりのあり方に合わせて、市民ニーズを踏まえた公園の配置方針を策定します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
令和2年3月末の状況	既成市街地での適切な公園配置方針や生物多様性を考慮した公園配置方針の検討を実施	
事業目標量	第二期終了時点(平成28年度末)までに、公園配置方針を策定する。	
第三期事業量	平成29年度	これまで検討した既成市街地での公園配置方針に加え、生物多様性を考慮した公園・緑地の配置方針について検討する。
	平成30年度	平成29年度に検討した結果を踏まえ、既成市街地での適切な公園配置方針の策定をする。
	平成31年度	
第四期事業量	令和2年度	公園の配置方針を踏まえた公園整備方針の策定
	令和3年度	公園の配置方針を踏まえた公園整備方針の策定
令和2年度事業報告		
事業目標	公園の配置方針を踏まえた公園整備方針の策定	
事業実績	策定に向けて検討を実施した。	
担当課評価	△	
評価理由	策定に至っていないため。	
今後の対応	引き続き策定に向けて検討する。	

評価 (◎、○、△、×、-)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・公園の配置は、計画通りに配置することは難しいので、検討する程度でいいかと思う。 ・公園の整備計画の策定は、大変重要、かつ困難を伴うものと思います。しかし、ここ数年検討を行っているものの計画(案)すら出ていない状況では、評価することはできません。 ・「方針の策定」とか[検討]といった具体成果をもちにくい事業目標については、「検討した」だけでは、策定に向けた作業のどれほどが進捗したのか、外部からは評価しがたいです。評価はともかく、担当課内においては、「検討した」内容が、何らかのメモや議事録などの形で、継承され次年度に活かされることを期待します。 ・検討するのみにとどまっている。 ・既成市街地は、アクションが遅れると事業そのものが頓挫しかねないので、早急の方針を定めるべき。 ・公園整備事業が進んでいるため。 ・策定に向けて進めて頂きたい。 ・押立などは水道の無い公園ばかりである。公園は憩いの場だけでなく、災害時に避難所にもなるのでしっかり配置をしてもらいたい。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-3 借地公園制度の運用検討

施策の展開方針	新たな公園整備が困難な場合、借地公園制度を活用し、借地による公園整備を行います。
担当課	土木課
対象施設など	一定基準を満たすちびっ子広場など
10年間の目標	4公園(第一期)
展開手法など	一定基準を満たすちびっ子広場などを活用して、借地による公園整備を行います。 既成市街地での適切な公園配置方針を踏まえ検討します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
令和2年3月末の状況	下塚戸ちびっ子広場・なかよしちびっ子広場などのちびっ子広場の公有地化について検討した	
事業目標量	4公園(第一期)、第二期以降は地権者の意向などを踏まえながら柔軟に対応していく。	
第三期事業量	平成29年度	下塚戸ちびっ子広場・なかよしちびっ子広場の公有地化を検討する。
	平成30年度	下塚戸ちびっ子広場・なかよしちびっ子広場の公有地化を検討する(継続)。
	平成31年度	下塚戸ちびっ子広場・なかよしちびっ子広場の公有地化を検討する(継続)。
第四期事業量	令和2年度	-
	令和3年度	-
令和2年度事業報告		
事業目標	-	
事業実績	-	
担当課評価	-	
評価理由	-	
今後の対応	-	

評価 (◎、○、△、×、-)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度も指摘しましたが、平成29年度から、検討・継続が続いたまま、昨年度は「検討終了した」となっていて、長期計画の中での検討成果がとうとう報告されないままでした。公有地化を断念したのであれば、それが報告されるべきだし、次の長期計画ではこれを踏まえた目標設定が検討されなければなりません。ここでは数年間通し「このままで済ませてよいのか」の疑問を含めた評価とさせていただきます。 ・継続されているため。 ・下塚戸ちびっ子広場、なかよしちびっ子広場は整備が完了したと理解しています。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-4 身近な公園の再整備

施策の展開方針	老朽化した身近な公園は、子どもから高齢者までが気持ちよく使え、楽しく魅力ある公園となるよう、整備内容や整備後の維持管理などについて、地域住民との協働による再整備を進めていきます。
担当課	土木課
対象施設など	街区公園など身近な公園
10年間の目標	点検調査結果、市民の声などを踏まえて、必要に応じて再整備
展開手法など	再整備にあたっては、地域住民からなる検討会などとの協働による整備を進めます。 アダプト制度を活用した、地域住民による公園管理も視野に入れた公園の再整備に努めます。 再整備にあたっては、公園施設の点検結果などを踏まえて検討を進めます。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
令和2年3月末の状況	点検調査結果、市民の声などを踏まえて、必要に応じて再整備を実施	
事業目標量	街区公園など身近な公園を再整備する。	
第三期事業量	平成29年度	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。
	平成30年度	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。
	平成31年度	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。
第四期事業量	令和2年度	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。
	令和3年度	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。
令和2年度事業報告		
事業目標	地域との連携を図りながら、公園の再整備を図る。	
事業実績	・吉方公園内のモニュメントの周りに柵を設置 ・うまさん公園内のブランコ1基を幼児用シートに取替設置 など地域の意見を聞きながら公園の再整備を図っている。	
担当課評価	○	
評価理由	再整備を図ることが出来たため。	
今後の対応	引き続き地域と連携しながら、再整備を検討する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の意見を聞きながら再整備したことが評価される。 ・地域と連携しながら身近な公園の再整備を検討し、可能なものから着手する姿勢は高く評価できる。 ・事業目標が抽象的なため、実績報告が少しでもあれば進捗と評価せざるを得ません。目標と実績報告に内容的な乖離があるように感じております。実績報告内容も、「再整備」というよりメンテナンス行動のように見えます。地域連携として、どのような、また、どれほどの意見集約がなされたのか、うかがいたく思います。 ・継続した公園整備ができています。 ・老朽化した公園の再整備は是非進めて欲しい。 ・整備が継続されているため。 ・行政の整備計画に合わせて進行している。 ・モニュメント必要？何のための柵？ ・他の公園にも順次やってもらいたい。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-5 公共施設の緑化(屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなど)

施策の展開方針	公共施設は、身近に緑を感じられる拠点として、緑豊かなまちづくりの先導的な役割を果たすよう、広がりと厚みを持った緑の創出に努めていきます。
担当課	教育総務課・指導課・子育て支援課・生涯学習課・市民協働課・健康課・市立病院管理課・図書館課
対象施設など	市所管全公共施設
10年間の目標	市立保育園、市立小中学校、文化センター、地域振興プラザ、市立病院、城山体験学習館などで緑化の充実
展開手法など	既存施設では、緑化可能場所を対象に、屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなどの緑化を進め、既に整備済の箇所については維持に努めていきます。

担当課別行動計画

担当課名	教育総務課	
令和2年3月末の状況	一部芝生化した校庭(6校)、屋上緑化(2校)の維持。	
事業目標量	一部芝生化した校庭(6校)、屋上緑化(2校)の維持。	
第三期事業量	平成29年度	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)
	平成30年度	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)
	平成31年度	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)
第四期事業量	令和2年度	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)
	令和3年度	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)
令和2年度事業報告		
事業目標	一部芝生化した校庭の維持(6校) 屋上緑化の維持(2校)	
事業実績	一部芝生化した校庭の維持、屋上緑化の維持を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	一部芝生化した校庭の維持、屋上緑化の維持を行っている。	
今後の対応	引き続き一部芝生化した校庭の維持、屋上緑化の維持を行う。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・まずまずの管理がされている。 ・今回は現況を拝見できていませんが、児童生徒や教員・用務の皆さまの目が届くところで、行き届いた維持がなされていることと思います。コロナ禍で何かと障害もあると思いますが、頑張られてください。 ・芝生の管理は困難なため、現状維持ということであろう。 ・質の向上は常に意識していただきたい(先生の負担が増える方法はとらずに)。 ・維持がなされているため。 ・六小、向陽台小、長峰小、平尾小、第二中の芝生維持はまずまずであるが、四中の芝生維持は工夫が必要と見受けられる。(雑草と散水、芝刈の回数等)。 ・これからも緑化を進めて欲しい。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-5 公共施設の緑化(屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなど)

担当課名	指導課	
令和2年3月末の状況	小中学校18校で緑のカーテンを継続している。	
事業目標量	小中学校17校で緑のカーテンを実施する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。
	平成30年度	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。
	平成31年度	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。
第四期事業量	令和2年度	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。
	令和3年度	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。
令和2年度事業報告		
事業目標	小中学校18校で緑のカーテンを継続する。	
事業実績	小中学校18校で緑のカーテンを設置した。	
担当課評価	◎	
評価理由	環境に配慮した暑さ対策を講じ、よりよい学習環境の確保が図れている。	
今後の対応	継続して実施いたしたい。	

評価 (◎、○、△、×、-)	◎高く評価できる(目標を早期に達成できた、努力しているなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・よい環境が保たれている。 ・今回は現況を拝見できていませんが、児童生徒や教員・用務の皆さまの目が届くところで、行き届いた維持がなされていることと思います。コロナ禍のもと、日常管理にも何かと障害があると思いますが、頑張ってください。 ・最近、特に夏の暑さは窓側の生徒にはつらいことと思う。特に上の階の学級は恩恵を受けるまではしばし時間がかかることと思う。写真での判断だが第四中学の場合、カーテンとは言い難く、ただ空いているところに植えましたというようなケースがあるようで、他の学校での状況も気になるが確認はできない。最近ではゴーヤでも連作障害が出ていると聞く。地植えして場合には今後難しくなる可能性がある。 ・上記報告について、未確認の案件があり、評価できない。◎の自己評価は疑問。市内の18校で緑のカーテンを積極的に実施していて、美しく青々と茂らせている印象はない。学校という現場は、芝生や屋上緑化とともに、やるならきっちりやっていただきたい箇所なので、来年度(令和3年度)は日付入りの写真で全校分を報告していただきたい。 ・継続されているため。 ・緑のカーテンは各校定着し環境が整備されている。 ・これからも緑化を進めて欲しい。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-5 公共施設の緑化(屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなど)

担当課名	子育て支援課	
令和2年3月末の状況	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施を継続	
事業目標量	保育園4園での花壇、緑のカーテン、菜園を実施する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
	平成30年度	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
	平成31年度	公設公営3保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
第四期事業量	令和2年度	公設公営2保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
	令和3年度	公設公営1保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)
令和2年度事業報告		
事業目標	公設公営2保育園での花壇・緑のカーテン・菜園の実施(継続)	
事業実績	保育園での花壇・緑のカーテン・菜園を実施。	
担当課評価	○	
評価理由	花壇、緑のカーテン、菜園の植物が順調に成長した。	
今後の対応	ひまわり、朝顔など、緑のカーテンの充実を図る。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・まずまずの管理がされている。 ・今回は現況を拝見できていませんが、評価理由欄の「順調に」に担当課の自信があらわれているようです。園児や保護者皆さま、教員・用務の皆さまの目が届くところで、行き届いた維持がなされていることと思います。コロナ禍のもと、日常管理にも何かと障害があると思いますが、頑張ってください。 ・日差しの緩和、収穫の楽しさを今後も体験できるとよいと思う。 ・きれいに整備されているため。 ・緑のカーテン、花壇、菜園が定着してきている。 ・園児と行うのは教育上も良い。竹などの心配もあり、保育士の先生方は大変だが頑張っている。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-5 公共施設の緑化(屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなど)

担当課名	生涯学習課	
令和2年3月末の状況	文化センター5館で緑のカーテンを実施。iプラザの屋上緑化を維持。	
事業目標量	文化センター5館で緑のカーテンを実施する。iプラザの屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。
	平成30年度	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。
	平成31年度	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。
第四期事業量	令和2年度	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。
	令和3年度	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。
令和2年度事業報告		
事業目標	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザの屋上緑化を継続する。	
事業実績	文化センター5館で緑のカーテンを継続している。iプラザ屋上緑化を継続している。	
担当課評価	○	
評価理由	毎年継続して維持できている。	
今後の対応	文化センター5館で緑のカーテンを継続する。iプラザ屋上緑化を継続する。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・まずまずの管理がされている。 ・昨年度は、利用時間の短縮など市民の目に触れる機会が減ったのは残念ですが、継続していただけたことありがたいです。 ・今後も継続してほしい。 ・継続がうまくいっているため。 ・文化センターの緑のカーテンは定着している。iプラザの屋上緑化はまずまずかな？ ・緑化を進めて欲しい。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-5 公共施設の緑化(屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなど)

担当課名	市民協働課	
令和2年3月末の状況	地域振興プラザの屋上緑化を維持している。	
事業目標量	地域振興プラザの屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	屋上緑化の維持管理を継続する。
	平成30年度	屋上緑化の維持管理を継続する。
	平成31年度	屋上緑化の維持管理を継続する。
第四期事業量	令和2年度	屋上緑化の維持管理を継続する。
	令和3年度	屋上緑化の維持管理を継続する。
令和2年度事業報告		
事業目標	屋上緑化の維持管理を継続する。	
事業実績	前年度から引き続き屋上緑化の維持管理を継続した。	
担当課評価	○	
評価理由	当初の予定通り、屋上緑化の維持管理を継続した。	
今後の対応	引き続き屋上緑化の維持管理を継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・現状維持の管理がされている。 ・現場を拝見することができました。設置からの時間経過で緑化状況の劣化が進行したようで心配されますが、もともと灌水設備がなく、土厚も少ない設置の中でよく耐えていると思います。水栓の追加設置など、設備面での対策も願わしいところです。 ・継続している。 ・継続はされているがもう少しボリュームある緑化になってほしい。 ・振興プラザの屋上緑化は猛暑が続くと現状の土厚では維持は困難ではないかと思われる。散水量は増す検討も必要と考える。 ・緑化を進めて欲しい。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-5 公共施設の緑化(屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなど)

担当課名	健康課	
令和2年3月末の状況	稲城市健康プラザの屋上緑化を維持した。	
事業目標量	稲城市健康プラザの屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。
	平成30年度	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。
	平成31年度	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。
第四期事業量	令和2年度	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。
	令和3年度	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。
令和2年度事業報告		
事業目標	オーエンス健康プラザの屋上緑化を継続する。	
事業実績	リュウノヒゲ(ジャノヒゲ)を植栽して緑化する。	
担当課評価	△	
評価理由	設備不良により、大部分が枯れている。	
今後の対応	修繕及び植栽について今後をどうするかを検討する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・よく管理されているとはいえない。 ・直近の状況は拝見できていませんが、従前から枯死の進行が目立ち気にしておりました。どこかの時点で再生を試みられることに期待しています。面積が広いので内部に立ち入っての計画的管理の必要を感じております。 ・以前より植栽された植物は遷移していたが、捕植した植物は枯れてしまったようである。捕植する前に設備点検をするべきではなかったか。 ・設備不良をどうするか…と検討するものでしょうか。早く修理して欲しい。 ・維持がなされているため。 ・屋上緑化の土厚、散水量も含めて検討願いたい。 ・植栽の種類や修繕の問題ではなく、人(管理)の問題では。 ・枯れてしまった原因を追求して今後は頑張ってもらいたい。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-5 公共施設の緑化(屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなど)

担当課名	市立病院 管理課	
令和2年3月末の状況	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続している。	
事業目標量	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。
	平成30年度	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。
	平成31年度	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。
第四期事業量	令和2年度	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。
	令和3年度	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。
令和2年度事業報告		
事業目標	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。	
事業実績	健診外来棟: 去年度よりも緑が映える状態に改善された。立体駐車場屋上: アベリア・ツツジ・ハギ・ヤマブキ等150㎡は良好に維持されている。	
担当課評価	○	
評価理由	立体駐車場の屋上緑化は、緑化率が維持され目で見える安らぎに貢献し、また、健診外来棟の緑も映えるように改善された。	
今後の対応	稲城市立病院検診センター外来棟、立体駐車場の屋上緑化を継続する。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・よく管理されている。 ・視察させていただきました。十分な土量など設計上の配慮に加え、丁寧な管理が実行されている印象がありました。今後も頑張ってください。 ・継続していただきたい。 ・きれいに維持されているため。 ・立体駐車場の屋上緑化は申し分なし。このまま維持管理を継続願いたい。 ・市立病院のは手入れがゆきとどきとても良い。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-5 公共施設の緑化(屋上緑化、壁面緑化、校庭の芝生化、緑のカーテンなど)

担当課名	図書館課	
令和2年3月末の状況	城山体験学習館の屋上緑化を継続している。	
事業目標量	城山体験学習館の屋上緑化を維持する(継続)。	
第三期事業量	平成29年度	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。
	平成30年度	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。
	平成31年度	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。
第四期事業量	令和2年度	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。
	令和3年度	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。
令和2年度事業報告		
事業目標	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。	
事業実績	城山体験学習館の屋上緑化を継続している。	
担当課評価	○	
評価理由	概ね実施できている。	
今後の対応	城山体験学習館の屋上緑化を継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・概ね管理がされている。 ・通常の屋上緑化と異なり、城山公園から見下ろせる位置で市民の目にも触れやすいので、継続に期待します。 ・概ね良好。 ・継続されているため。 ・周辺の森から雑草の種が飛散するが現状を維持して欲しい。 ・継続してほしい。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-6 自然樹形を感じさせる維持管理の検討

施策の展開方針	道路は日常的に市民が利用する空間であり、道路の緑がもたらすイメージは緑の豊かさを感じるための主要な要素になっています。また、広がりや厚みを持った豊かな街路樹のある道路は、季節を感じることができます。これからの街路樹は、それぞれの樹種の特性を活かした自然樹形を感じさせる剪定手法や、美しい花を楽しめる剪定時期の採用など、維持管理手法を検討していきます。
担当課	土木課・管理課
対象施設など	周辺への影響が少ない大規模な公園 周辺への影響が少ない路線
10年間の目標	5公園、8路線
展開手法など	周辺への影響が少ない大規模な公園や市道を対象に、自然樹形を感じさせる樹木管理を行い、街に風格を与えるように努めます。これらのために、緑の育成管理手法の検討、選定手法など維持管理手法の検討を行います。都道は、東京都へ協力を要請します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
令和2年3月末の状況	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	
事業目標量	稲城中央公園、城山公園、若葉台公園、大丸公園、平尾近隣公園で実施する。	
第三期事業量	平成29年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。代表的な樹木をホームページに掲載し、PRを行う。
	平成30年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
	平成31年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
第四期事業量	令和2年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
	令和3年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
令和2年度事業報告		
事業目標	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	
事業実績	自然樹形を感じさせる育成管理を継続した。	
担当課評価	○	
評価理由	自然樹形を保つための剪定を行ったため。	
今後の対応	引き続き自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・まずまずの管理がされている。 ・着実に実行されているようで好ましいことです。コロナ禍で公園や街路樹の癒し効果も評価されていると思います。よろしく願います。 ・剪定直後の写真がないため評価が難しい。 ・道路の街路樹はその街のイメージをつくる大事な要素です。育成管理をしっかりやっていただきたい。 ・維持されているため。 ・シラカシ、クスノキ、ヤマモモ等は剪定しても6ヶ月程度で元に戻ってしまうが、定期的に剪定を継続願います。 ・自然樹形が何かと考えなければならぬと思う。人の手が入らないでいるのか、自然樹形なのか、人の手が入っても自然樹形なのか。 	

2.身近な緑拠点づくりプロジェクト

2-6 自然樹形を感じさせる維持管理の検討

担当課名	管理課	
令和2年3月末の状況	自然樹形を感じさせる育成管理を実施した。	
事業目標量	堅神社通り、iプラザふれあいロード、若葉台東樫の木通り、若葉台西樫の木通り、若葉台中央通り、若葉台公園西通り、多摩川サイクリングロード、三沢川側道で実施する。	
第三期事業量	平成29年度	追加路線を検討する。自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
	平成30年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
	平成31年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
第四期事業量	令和2年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
	令和3年度	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。
令和2年度事業報告		
事業目標	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	
事業実績	自然樹形を感じさせる育成管理を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	自然樹形を感じさせる形の剪定を実施した。	
今後の対応	自然樹形を感じさせる育成管理を継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・よく管理されている。 ・着実に実行されているようで好ましいことです。コロナ禍で公園や街路樹の癒し効果も評価されていると思います。よろしくお願いします。 ・剪定直後の写真がないため評価が難しい。 ・維持されているため。 ・多摩川サイクリングロードは自然樹形になっているので自転車、歩行者が下枝にかからない程度の剪定でOK。三沢川側道も歩行者に影響しない程度でOK。堅神社通り等は枝扳剪定を行い枝が混まない維持管理を実施すれば良い。 ・三沢川側道の桜は年々すばらしくなっている。これも育成管理が良いからだと思う。これからも継続していくべきだ。 	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-1 土地区画整理事業による公園・緑地の整備

施策の展開方針	土地区画整理事業により、新市街地の整備とともに、計画的に配置された公園や緑地が整備されます。これらの公園・緑地の整備にあたり、積極的に広がりと厚みを持った緑を創出し、緑につつまれたまちづくりを進めます。また、植栽する樹木には、樹名板を設置して市民が親しみを持てるようにします。
担当課	区画整理課・市街地整備課
対象施設など	新たに設置される公園・緑地
10年間の目標	公園16箇所(120,077㎡) 緑地13箇所(33,911㎡)
展開手法など	事業区域内の権利者や関係団体と協議し、緑の基本計画の考え方が反映されるように、整備内容の検討を進めます。

担当課別行動計画

担当課名	区画整理課	
令和2年3月末の状況	稲城長沼3号公園(ペアパーク)整備1200㎡	
事業目標量	公園(6箇所)10,488㎡を整備する。	
第三期事業量	平成29年度	
	平成30年度	
	平成31年度	
第四期事業量	令和2年度	-
	令和3年度	-
令和2年度事業報告		
事業目標	-	
事業実績	-	
担当課評価	-	
評価理由	-	
今後の対応	-	

評価 (◎、○、△、×、-)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	・整備がなされているため。

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-1 土地区画整理事業による公園・緑地の整備

担当課名	市街地整備課	
令和2年3月末の状況	上平尾土地区画整理事業地内の公園2箇所4,164㎡、緑地5箇所17,559㎡	
事業目標量	公園10箇所110,589㎡、緑地13箇所33,911㎡	
第三期事業量	平成29年度	南山土地区画整理地内の公園1箇所9,405㎡、緑地2箇所7,479㎡ 上平尾土地区画整理地内の公園2箇所4,164㎡、緑地5箇所17,565㎡
	平成30年度	南山土地区画整理地内の緑地1箇所3,851㎡
	平成31年度	南山土地区画整理地内の緑地3箇所3,026㎡ 小田良土地区画整理地内の公園3箇所8,180㎡
第四期事業量	令和2年度	小田良土地区画整理地内の公園3箇所8,180㎡ 南山土地区画整理地内の公園1箇所220㎡、緑地4箇所12,645㎡
	令和3年度	小田良土地区画整理地内の公園1箇所35,050㎡
		南山土地区画整理地内の公園1箇所220㎡、緑地1箇所2,495㎡
令和2年度事業報告		
事業目標	小田良土地区画整理地内の公園3箇所8,180㎡ 南山土地区画整理地内の公園1箇所220㎡、緑地4箇所12,645㎡	
事業実績	小田良土地区画整理地内の公園3箇所8,180㎡	
担当課評価	△	
評価理由	小田良地区は事業目標を達成できたため。令和3年2月に公園3箇所の整備が完了した。令和3年6月1日に一般開放済みである。	
今後の対応	南山東部地区については、公園・緑地あり方検討会による整備方針等に基づき、組合に指導・助言を行う。 小田良地区については、令和4年度末の換地処分に合わせて、小田良谷戸公園の用地を東京都へ引き渡す。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後芝生が生育していけば、いい公園になる。 ・担当課評価が△なのは、南山での実績がなかったからでしょうか。もしそうなら、評価理由に明記をお願いします。現状では、この文面から△評価になる理由が理解できません。土地区画整理事業など、担当課だけでは解決しない進捗阻害要因があるような場合は、成果について、割り引いて評価してよいと思います。現地視察した小田良川公園では、苗木の段階で樹間距離が短い植樹がきになりました。都の指示と聞いていますが、今後の健全な育成に努めてください。 ・南山土地区画整理地内の整備ができなかった。 ・細かな所まで行き届いているため。 ・公園整備進行中である。 ・まだ行った事がないので評価できないが区画整理事業の計画の中に公園を配置することは良いことだ。 	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-2 公共施設の緑化(学校など)

施策の展開方針	稲城市では、土地区画整理事業による新市街地の整備が進められています。新しく整備される市街地では、新たな公共施設の整備もされます。これらについて、積極的に広がりや厚みを持った緑を創出し、緑につつまれたまちづくりを進めます。
担当課	教育総務課
対象施設など	南山小学校における屋上緑化などの緑の創出と維持
10年間の目標	敷地内緑化及び屋上緑化などによる緑の創出と維持
展開手法など	南山小学校について、屋上緑化などの緑の創出を進めます。
備考	2-5に再掲

担当課別行動計画

担当課名	教育総務課	
令和2年3月末の状況	敷地内緑化及び屋上緑化の維持	
事業目標量	南山小学校における敷地内緑化及び屋上緑化などの緑の創出と維持をする。	
第三期事業量	平成29年度	敷地内緑化及び屋上緑化の維持
	平成30年度	敷地内緑化及び屋上緑化の維持
	平成31年度	敷地内緑化及び屋上緑化の維持
第四期事業量	令和2年度	敷地内緑化及び屋上緑化の維持
	令和3年度	敷地内緑化及び屋上緑化の維持
令和2年度事業報告		
事業目標	敷地内緑化及び屋上緑化の維持	
事業実績	敷地内緑化及び屋上緑化の維持を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	敷地内緑化及び屋上緑化の維持が出来た。	
今後の対応	引き続き敷地内緑化及び屋上緑化の維持を行う。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・概ね維持されている。 ・本年は現地を見ていませんが、写真で見る限り、屋上緑化もた懸念が改善されているように感じております。本件目標は、新設校を意識したものと思いますが、今後は市内校のモデルとして、維持に努めていただくと幸いです。 ・植物がまばらだった印象がある。 ・維持されているため。 ・敷地内緑化進行中であり、屋上緑化も維持出来ている。 ・南山小は高い所にあるので維持するのが大変だと思う。引き続き頑張ってもらいたい。 	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-3 地区計画区域の拡充と緑化率条例の検討

施策の展開方針	この10年間で整備完了が見込まれている南山東部土地地区画整理事業・上平尾土地地区画整理事業・(仮称)小田良土地地区画整理事業では、適切に緑が確保され、良好な市街地が形成されるように、地区計画区域の拡充を図るとともに、緑化率などの導入について検討を進めていきます。
担当課	都市計画課
対象施設など	南山東部土地地区画整理事業・上平尾土地地区画整理事業・小田良土地地区画整理事業、押立第一地区
10年間の目標	3箇所145.9haの決定
展開手法など	各土地地区画整理事業区域において、地区計画の決定を行います。地区計画の内容に、緑化率などの導入を盛り込むことを検討します。

担当課別行動計画

担当課名	都市計画課	
令和2年3月末の状況	緑化率の制限を盛り込んだ地区計画を6箇所197.7haを決定	
事業目標量	3箇所145.9haを決定する。	
第三期事業量	平成29年度	南山東部土地地区画整理事業の変更に伴う地区計画変更において緑化率の制限する範囲を拡大する。
	平成30年度	既存の地区計画の変更において緑化に関する事項の追加を検討する。
	平成31年度	既存の地区計画の変更において緑化に関する事項の追加を検討する。
第四期事業量	令和2年度	新規策定予定の地区計画において、緑化に関する事項の導入を検討する。
	令和3年度	—
令和2年度事業報告		
事業目標	新規策定予定の地区計画において、緑化に関する事項の導入を検討する。	
事業実績	稲城長沼駅東地区地区計画の決定(約0.6ha)	
担当課評価	◎	
評価理由	稲城長沼駅東土地地区画整理事業による都市基盤整備に合わせ、地区計画を策定した。また、低層住宅地区においては、緑化率を導入した。(約0.4ha)	
今後の対応	地区計画の新規策定及び変更の状況に合わせ、緑化に関する事項の導入を検討する。	

評価 (◎、○、△、×、—)	◎高く評価できる(目標を早期に達成できた、努力しているなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り実施できた。 ・長期計画になかった新たな地区計画が策定され、低密度地区については緑化率目標も盛り込まれたものと理解しました。この理解が正しければ喜ばしいことです。今後の継続に期待します。 ・計画決定できた。 ・検討もうまくいっているため。 ・計画通り進行中である。 ・計画の中に緑を入れるのは良いと思う。 	

3.新市街地の緑創造プロジェクト

3-4 四季折々に楽しめる街路樹の整備

施策の展開方針	稲城市では、土地区画整理事業による新市街地の整備が進められています。新しく整備される市街地では、骨格となる道路に街路樹が整備されます。 街路樹の整備は、四季折々に花や紅葉が楽しめるなど季節を感じることでできる樹種を選ぶなど、緑を増やすだけでなく、暮らしにやすらぎをもたらすような工夫をして、緑につつまれたまちづくりを進めます。
担当課	区画整理課・市街地整備課
対象施設など	南多摩駅周辺土地区画整理事業、榎戸土地区画整理事業、矢野口駅周辺土地区画整理事業、稲城長沼駅周辺土地区画整理事業、南山東部土地区画整理事業、上平尾土地区画整理事業、(仮称)小田良土地区画整理事業
10年間の目標	16路線(9,103.8m)
展開手法など	樹種や植栽パターンは、稲城市樹木花卉植栽計画及び地域住民の意見を反映します。

担当課別行動計画

担当課名	区画整理課	
令和2年3月末の状況	未実施	
事業目標量	5路線(1,539m)を整備する。	
第三期事業量	平成29年度	南多摩駅周辺土地区画整理事業：矢野口大丸線(150m)
	平成30年度	
	平成31年度	
第四期事業量	令和2年度	-
	令和3年度	-

担当課名	市街地整備課	
令和2年3月末の状況	上平尾地区1路線123m、小田良地区2路線903m	
事業目標量	南山地区9路線4,984m、上平尾地区2路線1,077m、小田良地区2路線903m	
第三期事業量	平成29年度	南山地区4路線1,017mを整備する。
	平成30年度	南山地区3路線632m、小田良地区1路線245mを整備する。
	平成31年度	上平尾地区1路線123m、小田良地区1路線658mを整備する。
第四期事業量	令和2年度	南山地区5路線1,315m
	令和3年度	南山地区3路線1,478m
令和2年度事業報告		
事業目標	南山地区5路線1,315m	
事業実績	未実施	
担当課評価	×	
評価理由	未実施のため。	
今後の対応	順調な事業進捗が図れるよう、組合と調整していく。	

評価 (◎、○、△、×、-)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・未実施のため評価できない。 ・土地区画整理事業の場合、時間はかかっても、着実な成果が期待できます。相手のある事業ですので、担当課単位で遅れがあっても、いずれ解消するものとあまり心配いたしません。上平尾・小田良の整備が完了して、南山が主課題になってきた段階だと思います。組合との調整はされているようなので、実事業が未実施であっても△評価とさせていただきます。 ・未実施だった。 ・調整がうまくいっているため。 ・南山東部地区7・4・5号線整備進行中である。 ・実施できる様にしてほしい。 	

4.駅前緑化プロジェクト

4-1 駅・駅前広場の緑化

施策の展開方針	市街地内の南北分断や交通渋滞を解消するために、JR南武線の高架事業を進めています。高架事業の完了にあわせて、JR南武線の稲城長沼駅と南多摩駅には、駅前広場が整備されます。これから新しく整備される駅前広場は、緑を大切にしている稲城市民の気持ちが伝わるような、緑が豊かで心やすらぐ姿となるように広がりと厚みを持った緑の整備を進めていきます。
担当課	区画整理課
対象施設など	JR南武線 稲城長沼駅、南多摩駅の駅前広場の整備
10年間の目標	稲城長沼駅・南多摩駅で緑豊かで心安らぐ駅前広場の整備
展開手法など	事業区間内の地権者や関係団体と、緑豊かな駅前広場の整備内容について検討していきます。

担当課別行動計画

担当課名	区画整理課	
令和2年3月末の状況	南多摩駅前広場(2,400㎡)整備工事完了	
事業目標量	JR南武線稲城長沼駅、南多摩駅の駅前広場を整備する。	
第三期事業量	平成29年度	-
	平成30年度	-
	平成31年度	-
第四期事業量	令和2年度	-
	令和3年度	-
令和2年度事業報告		
事業目標	-	
事業実績	-	
担当課評価	-	
評価理由	-	
今後の対応	-	

評価 (◎、○、△、×、-)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・目標も結果もないのであれば、評価のしようがありません。この状態が毎年次継続していることを懸念します。 ・検討、調整がうまくいっているため。 ・稲城長沼駅及び南多摩駅前広場整備中である。 	

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-1 市民ボランティアの人材育成・組織化・活動支援

施策の展開方針	人材の育成と組織化については、水と緑のまちづくりの地域リーダー、樹林地保全活動の指導者、自然観察の指導者、アダプト制度の参加者、公園でのプレイリーダーなど、活動の核となる人材の育成と、その組織化について取り組み、市民団体の知識や技術力向上のための支援、道具や資材などの活動支援について検討していきます。
担当課	土木課・市街地整備課
対象施設など	稲城中央公園・城山公園・若葉台公園・南山東部地区内の公園・緑地
10年間の目標	プレイリーダーによる公園運営の定着(稲城中央公園) 樹林地管理ボランティアの活動の定着(稲城中央公園、城山公園)
展開手法など	稲城中央公園の一部区域で、市民主体のプレイリーダーによる公園の運営を軌道にのせるために、市民とともに検討を進めていきます。 城山公園・若葉台公園・南山東部地区内の公園・緑地で市民主体の樹林地の育成活動の展開を進め、樹林地管理ボランティア活動の定着を進めていきます。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
令和2年3月末の状況	樹林地管理ボランティアの活動方針の検討を実施	
事業目標量	プレイリーダーによる公園運営を定着させる(稲城中央公園)。樹林地管理ボランティアの活動を定着させる(稲城中央公園、城山公園)。	
第三期事業量	平成29年度	プレイリーダー・樹林地管理ボランティアの活動方針の策定
	平成30年度	プレイリーダーの活動試行、樹林地管理ボランティア指導者の選定
	平成31年度	プレイリーダーの活動本格実施、樹林地管理ボランティア指導者の育成
第四期事業量	令和2年度	樹林地管理活動方針及び樹林地管理計画の策定
	令和3年度	ボランティア育成の実施
令和2年度事業報告		
事業目標	樹林地管理活動方針及び樹林地管理計画の策定	
事業実績	なし	
担当課評価	×	
評価理由	策定に至らなかったため。	
今後の対応	策定に向けて検討する。	

評価 (◎、○、△、×、-)	× 評価できない(まったく進んでいないなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・進展してない。今後期待される。 ・前年度以前に掲げていたマンパワー関係の事業が全て実施されない中で、方針や計画のみが目標となっている事情が理解できません。積み残し課題があるのであれば、それを毎年の目標に掲げるべきではないでしょうか。その面の充実があって、彼らを交えた中で、方針や計画が策定される手順い期待しています。(以下、毎年書かせていただいている事項です)事業趣旨は間違っていないと考えるので、着実な進捗を実現させるための方策について、見直していくことも必要ではないか。市の内部だけの検討では方針策定が困難であるなら、その実情を市民に公開して知恵や協力を求めること、市が制御しやすい活動にこだわることなく、市民パワーを集めやすい形態を模索することも重要と考える。 ・目標はコロナ禍前に策定したものであるにもかかわらず、ずっと未達成のまま推移している。現在コロナ禍となりボランティアを募ることもままならなくなっていると思われ、活動方針を転換する必要があるのではないか。 ・検討、調整がうまくいっているため。 ・行動計画の事業目標になっているのに毎年実績「なし」はなぜでしょう。 ・策定してほしい。 	

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-1 市民ボランティアの人材育成・組織化・活動支援

担当課名	市街地整備課	
令和2年3月末の状況	未実施	
事業目標量	エリアマネジメント組織による公園づくり及び維持管理を検討する(南山東部地区)	
第三期事業量	平成29年度	樹林地管理の実施
	平成30年度	樹林地管理の実施
	平成31年度	樹林地管理の実施
第四期事業量	令和2年度	樹林地管理の実施
	令和3年度	樹林地管理の実施
令和2年度事業報告		
事業目標	樹林地管理の実施	
事業実績	公園・緑地あり方検討会開催に向けた課題等の整理	
担当課評価	△	
評価理由	公園・緑地あり方検討会を開催することができなかったため。	
今後の対応	公園・緑地あり方検討会の開催に向け、課題と対応方針を整理し、組合との協議を進める。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の検討が期待される。 ・以前の評価シートには、「公園・あり方検討会を開催」という記述があったと記憶するが、ここ数年は目標が「管理の実施」であり、内容が「検討会開催に向けた課題等の整理」となって、検討会は未実施のようになっている。評価シートを見た限りでは、何がなされ何ができていないのかつかみきれない。各年度の事業量が全て「樹林地管理の実施」という抽象的ながらも実施レベルと受け取られかねない名称であり、事業実績との乖離も甚だしい。いずれにしても、この報告では評価もできず、進捗への不安だけの評価とした。 ・検討会は平成29年4月以降行われていないのではないかと。コロナ禍でさらに検討会実施は困難になったと考えられる。 ・検討、調整がうまくいっているため。 ・検討会を開催してほしい。 	

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-2 各種普及啓発活動の実施

施策の展開方針	稲城市が管理する公共施設の植栽に樹名板を設置し、市民の緑への関心を高め、緑に対し理解を深めていく機会を増やしていきます。
担当課	土木課・管理課・指導課
対象施設など	公園・道路植栽・学校(小学校11校・中学校6校)
10年間の目標	126公園 7路線 17校
展開手法など	児童生徒や多くの市民の目につきやすい主要な部分から樹種の調査を行い、市民による手づくり樹名板などの設置の検討を行います。 その他、新たに整備される公園・道路では、主要な場所の植栽に樹名板を設置します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
令和2年3月末の状況	24公園に樹名板を設置した	
事業目標量	樹名板を126公園に設置する。	
第三期事業量	平成29年度	樹名板を街区公園(15公園)に設置する。
	平成30年度	樹名板を街区公園(15公園)に設置する。
	平成31年度	樹名板を街区公園(14公園)に設置する。
第四期事業量	令和2年度	学校と連携した樹名板づくりの実施
	令和3年度	学校と連携した樹名板づくりの実施
令和2年度事業報告		
事業目標	学校と連携した樹名板づくりの実施	
事業実績	向陽台小学校と連携した樹名板づくりを実施した。	
担当課評価	△	
評価理由	学校と連携して樹名板づくりを行ったが、設置した場所が公園ではなく学校内であるため「△」とした。	
今後の対応	学校と連携した樹名板づくりを継続する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携して校内の道路側に樹名板がつけられたことが評価される。 ・向陽台小学校は現地を見せていただきました。学校内とはいいながら外部道路から見える樹名板は、子どもたちの手作り感もあってよかったと思います。ただし、昨年までであった公園内の樹名板設置に全く触れられていないのはどうしてか。昨年までの実績をみても、「公園にはもう設置対象がない」状態ではないと思われるが、もし公園設置が順調に進まない事情があるのであれば、それを担当課評価にも位置づけてほしい。評価シートは「やったことだけ報告」ではなく、「やれなかった事情を今後につなぐ」ために作成するものである。この事業には緊急性や安全性という要素がないので、遅延は懸念されるものではありませんが、担当課の苦労を共有するために、評価システムを活かしてほしいと思います。 ・小学校と連携できたのはよかった。 ・来年度(令和3年度)は、126公園のうち幾つの公園に設置済みなのか、報告していただきたい。 ・設置もうまくいっているため。強いていえば樹名板の下(片隅)にでもニックネームか、下の名前とかを記せばその人の思い出にもなるかな。 ・向陽台小学校樹名板進行中である。 ・学校内でも良いと思うが公園の木に樹名板をつくるとしたので△にしました。 	

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-2 各種普及啓発活動の実施

担当課名	管理課	
令和2年3月末の状況	樹名板を設置しなかった	
事業目標量	樹名板を7路線に設置する。	
第三期事業量	平成29年度	樹名板を2路線に設置する。
	平成30年度	樹名板を2路線に設置する。
	平成31年度	樹名板を3路線に設置する。
第四期事業量	令和2年度	樹名板を1路線に設置する。
	令和3年度	樹名板を1路線に設置する。
令和2年度事業報告		
事業目標	樹名板を1路線に設置する。	
事業実績	樹名板を1路線に設置した。	
担当課評価	○	
評価理由	1路線に樹名板を設置した。	
今後の対応	樹名板の設置を進める。	

評価 (◎、○、△、×、-)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・樹名板が設置されたことが評価される。 ・順調に進められているものと思います。ただし、昨年も感じたことですが、樹名板に市の事業として統一感がなく、誰が何のために設置したものが、市民に伝わりにくい印象があります。稲城市が、市内緑化を目標に掲げていて、その意識を市民と共有するために設置活動を進めているイメージが伝わるようなデザイン(目立たせるのではなく)が各課共通で採用されれば、もっと趣旨が伝わるかと思います。(他市では見たように思います) ・目標通りに設置ができた。 ・前年度に設置がなかったとすると、今年度の計画を満たしていても全体では遅れている。来年度(令和3年度)は、累計での進捗状況も報告していただきたい。 ・整備されているから。 ・樹名板設置進行中である。 ・今後も継続してください。 	

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-2 各種普及啓発活動の実施

担当課名	指導課	
令和2年3月末の状況	樹名板を13校に設置した	
事業目標量	樹名板を17校に設置する。	
第三期事業量	平成29年度	樹名板を2校に設置する。
	平成30年度	樹名板を2校に設置する。
	平成31年度	樹名板を2校に設置する。
第四期事業量	令和2年度	樹名板を2校に設置する。
	令和3年度	樹名板を2校に設置する。
令和2年度事業報告		
事業目標	樹名板を2校に設置する。	
事業実績	樹名板を2校に設置した。(稲城第二小学校・稲城第三中学校)	
担当課評価	◎	
評価理由	身近な自然環境への理解が深まり、植物や自然への親しみを誘発することができたため。	
今後の対応	今後も継続して実施いたしたい。	

評価 (◎、○、△、×、－)	◎高く評価できる(目標を早期に達成できた、努力しているなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれに目標と実績がありますが、土木課と指導課は、ともに小中学校への樹木番設置を取り上げています。成果に重複はないようですが、どう棲み分けていらっしゃるのでしょうか。上にも書いたとおり、連携して統一感のある設置ができているのであれば問題はありませんが、このあたりに、共通感のなさが潜んでいないか心配しています。 ・目標通り設置ができた。 ・樹名板もマジックだと消えるので彫刻刀などで掘ったらどうでしょうか。 ・今後も継続出来る様に期待します。 ・一般人では木の種類は分からないので樹名板をつけるのは良い。 	

5.市民活動の支援と育成プロジェクト

5-3 水と緑の情報収集・提供

施策の展開方針	水と緑に関する情報を市民と行政が共有化し、より多くの市民自らが積極的に水と緑のまちづくりを進めていけるように、水と緑に関する情報の収集と提供に努めます。
担当課	土木課
対象施設など	市内全域
10年間の目標	ホームページなどによる情報提供の充実 アダプト団体の交流の場の提供と活動の活発化による情報交換の促進
展開手法など	指定管理者との連携を図り、市内各所の花の見所・時期、イベント情報などの公園・緑地の魅力を発信します。 アダプト制度による市民活動の活動報告の場の提供や各種活動団体同士の交流の場の提供などを検討します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
令和2年3月末の状況	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化を図った	
事業目標量	ホームページなどによる情報提供を充実させる。アダプト団体の交流の場を提供し、活動を活性化させ、情報交換を促進する。	
第三期事業量	平成29年度	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化
	平成30年度	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化
	平成31年度	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化
第四期事業量	令和2年度	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化
	令和3年度	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化
令和2年度事業報告		
事業目標	市ホームページの充実、アダプト制度による市民活動の活性化	
事業実績	市広報へのアダプト制度の募集記事の掲載を行った。	
担当課評価	○	
評価理由	2団体13名の増員があったため。 (平成31年度:35団体/304名・令和2年度:37団体/317名)	
今後の対応	ホームページの内容の充実を図り、市民活動の活性化を促進する。	

評価 (◎、○、△、×、－)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍という制約の中で活動が進んだことが評価される。 ・アダプト制度の規模増があったことは評価できます。今後の充実に期待します。ただし、これらは手段であり、昨年も書きました本来目標である市民活動の活性化や、他件目標ですが人材育成につながる事が重要です。 ・今後の活性化につながればよいと思う。 ・「市広報いなぎ」へ街路樹、公共施設、学校の緑のカーテン、屋上などの緑化への取組みを紹介したらよいのではないか。 ・調整、整備がされているため。 ・今後の充実に期待します。 ・13名も増員が出来て良かった。 	

その他-1

施策の展開方針	稲城市の緑を保全するために平成2年度から積み立てている緑化推進基金の活用方針について検討します。
担当課	土木課
対象施設など	市内全域
2年間の目標	緑化推進基金の活用方針の検討
展開手法など	公共空間としての緑地の確保、公共施設や民有地での緑資源の育成、緑化推進制度の普及、啓発等に寄与する、緑化推進基金の活用方針について検討します。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
令和2年3月末の状況	—	
事業目標量	緑化推進基金の活用方針の検討	
第三期事業量	平成29年度	
	平成30年度	
	平成31年度	
第四期事業量	令和2年度	緑化推進基金の活用方針の検討
	令和3年度	緑化推進基金の活用方針の検討
令和2年度事業報告		
事業目標	緑化推進基金の活用方針の検討	
事業実績	大丸自然公園の一部用地取得に充当することとなった。	
担当課評価	○	
評価理由	令和3年度の大丸自然公園の一部用地取得に向けた協議を行い、整理ができたため。	
今後の対応	引き続き活用方針の検討を行う。	

評価 (◎、○、△、×、—)	○評価できる(予定通りに事業が進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の基金活用方針の検討が期待される。 ・基金が、消耗費用ではなく用地取得という資産ストック拡充に適用されることはよいことと思います。大丸自然公園という表現は初耳でしたが、既存公園の拡充でしょうか。 ・土地取得には多額の資金が必要なことは承知している。今回一部取得することになった大丸自然公園周辺にもコナラ等のブナ科樹種が多く存在するが、例外なくナラ枯れの被害に直面している。昨年度稲城市に侵入したカシノナガキクイムシの加害は侵入してからおおよそ5年間は継続する。特に侵入してから2～3年後に被害が最大となる可能性が高いため、何もせずに時間が経過すればカシナガ被害によって当然枯れる樹木が出てくるが、事前に予防に要する金額よりも枯損した樹木の伐採費用の方がはるかに高額であるため、この5年の間に基金の一部をナラ枯れに対して捻出することはできないだろうか。 ・検討、整備が進んでいるため。 ・緑化推進基金については見える形で活用して頂きたい。 ・より良い使い方を望みます。 	

その他-2

施策の展開方針	稲城市の公共施設における植栽方法などを定めた「稲城市樹木花卉植栽計画」が平成6年3月に策定されました。計画策定から約25年が経ち、さまざまな状況変化を考慮した計画の見直しが必要なため、既存植栽の維持管理手法も含め、稲城市樹木花卉植栽計画の改定を行います。
担当課	土木課
対象施設など	市内全域
2年間の目標	稲城市樹木花卉植栽計画の改定
展開手法など	市民意識の変化、社会情勢の変化、新たな道路の整備計画を考慮し、既存植栽の維持管理も含め、稲城市の植栽のあり方の検討を行い、稲城市樹木花卉植栽計画の見直しを行います。

担当課別行動計画

担当課名	土木課	
令和2年3月末の状況	—	
事業目標量	稲城市樹木花卉植栽計画の改定	
第三期事業量	平成29年度	
	平成30年度	
	平成31年度	
第四期事業量	令和2年度	稲城市樹木花卉植栽計画の見直し検討
	令和3年度	稲城市樹木花卉植栽計画の改定
令和2年度事業報告		
事業目標	稲城市樹木花卉植栽計画の見直し検討	
事業実績	見直しの検討を行った。	
担当課評価	△	
評価理由	課題の整理にとどまったため。	
今後の対応	引き続き改定に向けた検討を行う。	

評価 (◎、○、△、×、—)	△やや評価できる(少し遅れ気味だが、確実に進んでいるなど)
令和2年度事業報告に対する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き改定に向けた検討が行われることが期待される。 ・長らく手をつけられていなかった計画ですので、拙速よりは慎重な準備と検討が必要と思います。整理された課題に対応する本番の成果は、課題の整理と見通しづけを基礎としますので、今後に期待し、課題抽出を進捗とみるべきだと考えました。 ・具体的な内容がわからない。 ・計画が進んでいるため。 ・これから見直しを実施していく。 ・「改定」ができるようにしてほしい。 	